

震災からの再生を目指す伝統産業



今年5月に開館した雄勝硯伝統産業会館でも「濡れ盃」が展示販売されている

宮城県石巻市雄勝町は、600年の歴史と伝統を誇る全国有数の硯の産地。同地区で産出される石を素材に生産された硯は、国の伝統的工芸品に指定され、最盛期は国内産硯の9割を占めた。雄勝石は黒色で光沢がある硬質の石材という特色を持ち、硯他にも東照宮の屋根材やヒリヤード台にも活用された。近年では血なまぐさい高級食器として生産販売されているものの、硯は筆を使う事が少なくなったことや学童向けに樹脂製が普及したため生産が低迷し、産業としての雄勝石活用は深い悩みを抱えている。

追い打ちをかけたのが東日本大震災だった。同地区も津波によって多くの犠牲に見舞われた。その後、住民は地区外への移住が相次いで過疎化が急速に進む。硯工房も多

くが流され、職人の高齢化とともに後継者も不足して、雄勝石はかつての輝きを失いかけていた。雄勝石の伝統を守りたい。精密機械加工を主力とするキョーユーの畑中得實社長も、そうしたい思いを抱いていた。仙台市で工芸品販売を営む島野昭彦は、ししまぎ社長にデザインを依頼し、雄勝石のペーパーウェイトを作った。2015年に仙台市で開かれた国連防災世界会議では関係者への記念品として使われた。

その製硯が堀切川一男東北大学大学院教授の目にとまった。堀切川教授は東北各地で産学官連携に携わっており、NPO法人未来産業創造おおさき(MSO)、宮城県大崎市)が主催するものづくり課題解決研究会の座長も務めている。同教授は水分を入れる「漆黒に色

「第8回ものづくり日本大賞」の特別賞は、惜しくも大臣賞を逃したものの、特に表彰すべき案件があった場合に授けられている。今回、唯一の特別賞となったのが、キョーユー(宮城県美里町)の「伝統工芸と先端機械加工技術の融合で先端技術工芸品『雄勝の濡れ盃』誕生」だ。東日本大震災からの地域復興を目指した産学官の取り組みが評価された。

産学官連携で誕生

「雄勝の濡れ盃」

第8回ものづくり日本大賞 特別賞受賞

雄勝石の伝統 最新技術で再生

東北大学大学院教授 堀切川 一男氏 インタビュー



「雄勝の濡れ盃」の開発指導に携わった堀切川一男東北大学大学院教授に聞いた。印象的な商品名を考案しました。「名前とともに商品のイメージが決まる。するとチームに団結力が生まれ、開発にブレがなくなる。今回も『雄勝の濡れ盃』というネーミングありきで始まった」

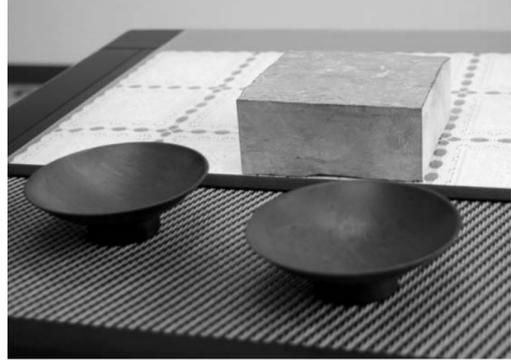
「雄勝の濡れ盃」の開発指導に携わった堀切川一男東北大学大学院教授に聞いた。印象的な商品名を考案しました。「名前とともに商品のイメージが決まる。するとチームに団結力が生まれ、開発にブレがなくなる。今回も『雄勝の濡れ盃』というネーミングありきで始まった」

「盃は口に直接当たる食器。その口当たりは味わいに大きく影響する。雄勝石は乾燥時と濡れた時の差が少なく、濡れた状態を長く保つ特徴がある。人口皮膚を使った摩擦試験で最適な口当たりになる数値を導き出し、仕上げの段階で実現していった」

「伝統工芸も元々は、誕生した当時の最新技術を使っていたはず。現代の新しい考えを打ち出しました」

「花咲かじいさんの気持ちでやっていた。ただ枯れ木に花は咲かない。肝心なのはミニマム目標を設定し、確実に成果を出すこと。自社製品の開発は、同時に販売面を考慮するのも大事。ただ大量生産・下請け型の価格設定は取らないほうがいい。今やウェブなどが通じて世界の市場ともつながっており、高くても必要とする人は買ってくれるという考えを持つべきだ。小さく産んで大きく育てる、そこに面白さがある」

「先端技術工芸品という新しい考えを打ち出しました」



奥の石材から盃1枚を生産する。材料の石選びがポイントになる



仙台筆筒とのセット販売は外国人に好評だ

小さく産んで大きく育てる

技術で作られた物でも、数十年後には伝統工芸品になることがある。雄勝石の再生を目指すには、新しいものを取り入れる必要がある。素材で伝統をつないでいくには、加工技術とともに生活スタイルに合わせた商品開発も必要だ。今回の酒造開発がきっかけになればと願っている。中小企業支援の考え方は、

「伝統産業を守るため、新しいものを取り入れる必要がある。素材で伝統をつないでいくには、加工技術とともに生活スタイルに合わせた商品開発も必要だ。今回の酒造開発がきっかけになればと願っている。中小企業支援の考え方は、

「伝統産業を守るため、新しいものを取り入れる必要がある。素材で伝統をつないでいくには、加工技術とともに生活スタイルに合わせた商品開発も必要だ。今回の酒造開発がきっかけになればと願っている。中小企業支援の考え方は、

「伝統産業を守るため、新しいものを取り入れる必要がある。素材で伝統をつないでいくには、加工技術とともに生活スタイルに合わせた商品開発も必要だ。今回の酒造開発がきっかけになればと願っている。中小企業支援の考え方は、

「伝統産業を守るため、新しいものを取り入れる必要がある。素材で伝統をつないでいくには、加工技術とともに生活スタイルに合わせた商品開発も必要だ。今回の酒造開発がきっかけになればと願っている。中小企業支援の考え方は、

東北産業特集

地域とつながり、未来へつなげる。

Yurtec
株式会社 ユアテック
http://www.yurtec.co.jp/

総合設備エンジニアリング企業として、高品質の技術と新しい価値をご提供します。

本社/仙台市宮城野区橋岡4丁目1-11 983-8622 TEL.022-296-2111
東京本部/東京都千代田区大塚2丁目2-11 100-0004 TEL.03-3243-7111
支社/青森・岩手・秋田・宮城・山形・福島 新潟・富山・石川・福井・大分
※ユアテックはユアテックシステム(株)の100%子会社(グループ)です。

創業二〇〇有余年。

石巻 白米

株式会社 白米 検査

宮城県石巻市立町2-4-29
TEL.0120-20-1842

新発売

スーパーガストース
・ガストースを速く排気能力
・表面追加工も出来ます

ラジエーター スプルー
・糸引き改善100%
・改善出来ない場合は返金します

プラモール精工 プラモール精工 検査

〒981-3351 宮城県富谷市鹿乃社4丁目3-5 TEL.022-348-1250/FAX.022-348-1244
詳しくはHPへ http://www.plamol-seiko.co.jp

林業機械の総合メーカー

IWAFUJI INDUSTRIAL CO., LTD.

イワフジ工業株式会社

http://www.iwafuji.co.jp/

(本社・工場) 〒023-0872 岩手県奥州市水沢字桜屋敷西5-1
TEL.0197-23-3111 FAX.0197-25-3177
(支店) 札幌・東北・南東北・関東・中部・関西・中国・九州

エレクトロニクス・自動車分野を支える表面処理技術

確かな表面処理技術で環境に貢献

私達はナノレベルの表面処理技術開発により、先端技術開発と地球環境の保全を行ないます。

事業部門
■電子部品めっき部門
■自動車部品めっき
・化成処理部門
■塗装部門

尾長島工場

ススキハイテック株式会社

本社・工場/〒990-0051 山形市銅町2-2-30 TEL.023(631)4703
尾長島工場/〒999-0213 川西町大字尾長島740-12 TEL.0238(54)3615

半導体製造装置・自動車部品・繊維機械部品
一般産業用機械精密部品の製造

空気圧トルクアクチュエーター

半導体製造装置部品

株式会社 伊藤製作所

代表取締役社長 伊藤 明彦

本社・工場
〒990-2317
山形市みはらしの丘5丁目1-3
TEL.023-687-1451
FAX.023-687-1452

ISO9001

LinkLinkLink
これからも、福島と

— Anniversary 100th —

FUKUSHIMA LTD.

株式会社 福島製作所

甲板機械とグラブバケットの